

令和4年度学校自己評価システムシート（県立与野高等学校）

目指す学校像	「二兎を追い、獲得する」をモットーとして、学力と創造力及び他者を尊重する心を育み、一人ひとりの進路実現を目指す学校
--------	---

重点目標	1 幅広い教養と確かな学力の向上を図るとともに、新学習指導要領への対応やICT活用に取り組み、進路実現を支援する。 2 自己を律し、他者を尊重する精神と、自らが主体的・能動的に行動する意識を育成する。 3 保護者・地域との連携をとおして、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価（2月1日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p><現状>本校生は学習意欲が高く、基本的な生活習慣も身に付いている。オンライン授業など学校としてのICT活用は一定程度進んだが、生徒自身が活用する機会は十分ではない。</p> <p><課題>生徒のICTを活用した学習や探究活動の機会を充実させる必要がある。</p>	<p>○授業充実と生徒の学力向上</p> <p>○生徒が希望する進路実現</p>	<p>①職員研修会の実施</p> <p>②ICT機器を活用した授業の実施</p> <p>①外部機関と連携した進路ガイダンス等の実施</p> <p>②長期休業中の進学補習の実施</p> <p>③英語外部検定試験を活用した英語力の向上</p>	<p>①職員研修会の実施回数(年2回以上)</p> <p>②生徒・保護者アンケートの「授業満足度」で肯定的回答が80%以上</p> <p>①②生徒・保護者アンケートの「進路行事への意欲的な参加」が70%以上</p> <p>③英語外部検定試験の延べ受験者数が800人以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT研修会を2回(5/17、12/6)実施 全HR教室にプロジェクターが設置され、ICT機器を活用した授業が増加 アンケート結果「授業満足度」は81%(前年度79%) 大学・短大・専門学校の入試担当者による分野別進路ガイダンスを実施(7/14) 埼玉りそな銀行と連携したキャリアセミナーの実施(11/17) 夏季休業中に26講座の補習を実施 アンケート結果「進路行事への意欲的な参加」は81%(前年度71%) 英語検定への興味・関心を高める行事「English Challenge」を実施(1/20) 英語外部検定試験は約730人受験 	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度入学生から1人1台端末を購入することを踏まえ、ICTの授業での活用を一層進める必要がある。 進路への意識が高い生徒がいる一方で、勉強をほとんどしないという生徒も増えている。進路行事、英語外部検定試験の積極的な取組を通し、進路意識を高めていく。
2	<p><現状>落ち着いた校風の下で、多くの生徒が生徒会活動・部活動に取り組んでいる。一方、与えられたことには取り組むが、自ら課題を発見し行動することは不得意な傾向がある。</p> <p><課題>学校行事の企画立案等の探究活動等を通じて、自分の意見を発表する機会の充実を図っていく必要がある。また、感染症対策を講じながら行事を実施していく必要がある。</p>	<p>○学校行事・部活動等をとおしたコミュニケーション力・協働力、チャレンジ力の育成</p> <p>○与野高生としてのプライドの育成</p>	<p>①生徒主体の学校行事の実施</p> <p>②部活動の積極的な取組</p> <p>①マナー指導・SNS指導等をとおして、他者を尊重する精神を育成</p> <p>②登下校指導、遅刻指導、整容指導の実施</p>	<p>①生徒・保護者アンケートの「行事の満足度」で肯定的な回答が80%以上</p> <p>②生徒・保護者アンケートの「部活動の満足度」で肯定的な回答が80%以上</p> <p>②部活動加入率90%以上</p> <p>①②生徒・保護者アンケートの「入学してよかった」が90%以上</p> <p>②生徒・保護者アンケートの「校内外における生活マナー」で肯定的な回答が90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三年ぶりの実施となった文化祭をはじめ、感染症対策を講じながら学校行事を予定どおり実施 アンケート結果「行事への意欲的な取組」は92%(前年度89%) 感染症対策による制限を受けながらも前向きに取り組む、科学技術部が全国高校総合文化祭、フェンシング部、弓道部が関東大会進出を果たした。 アンケート結果「部活動への意欲的な取組」は77%(前年度77%) 部活動加入率は91%(前年度89%) 登下校指導を毎日実施し、学校行事や定期考査期間中は増員して対応 学年を中心に継続的に遅刻指導・整容指導を実施 SNS講演会(4/12)を実施 アンケート結果「入学してよかった」は89%(前年度90%) アンケート結果「学校のルールを守って生活している」は99%(前年度98%) 今年度のいじめ認知件数は0件 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動がコロナ前に戻りつつある中で、生徒同士でコミュニケーションを図る力や、より高い目標へチャレンジする力を伸ばしていく必要がある。 大半の生徒は規範意識を持って学校生活を送れているものの、遅刻・欠席やルールを逸脱した行動も目立つようになっており、学校全体で継続して指導していく。
3	<p><現状>地域に根ざした学校として本校の教育活動が地域に理解されており、HPや保護者宛てメールも数多く更新・配信している。</p> <p><課題>コロナ禍で地域との交流等が縮小されており、感染症対策を講じた上で再開に向けて取り組む必要がある。</p>	○保護者・地域等の連携	<p>①ホームページの更なる充実</p> <p>②メール配信システムを使用したきめ細かな連絡</p> <p>③PTAと連携した講演会や大学見学会等の実施</p> <p>④生徒募集を重点化させ中学生および保護者へ情報を適切に提供</p> <p>⑤地域連携事業等への参加者の増加</p>	<p>①ホームページの更新回数が年120回以上</p> <p>②メール配信回数が年120回以上</p> <p>③PTA主催事業等の参加者数が年250人以上</p> <p>④学校見学会への参加者数が年2000人以上</p> <p>⑤地域連携事業等の参加生徒数が年100人以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> HP270回以上更新(平均7ヶ月数1900件/日)、メール230回以上配信 PTA進路講演会200人超(7/5)、マラソン大会運営35人(11/10)、PTA主催講演会等では各部担当者来校 文化祭・学校見学会(約3000人来校) 学校説明動画約6200アクセス 1年生による中学校訪問、管理職による塾訪問(150教室)、中学校PTA訪問の受入・中学校での進路講演会を実施 陸上部による小高連携事業(小学生90人、本校生10人)、書道部による地域交流講座(小学生20人、生徒1人) 市長とのタウンミーティング(3人)、鈴谷公民館でのプログラミング教室(3人) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した情報発信を継続する。 PTA活動に参加しやすい環境を検討する。 徐々にコロナによる制限が緩和される中で、より多くの生徒が地域と交流できる機会を設ける。

学校関係者評価	
実施日	令和5年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○小中学校では、端末の修理が追い付かないことや教員のスキルで取組に差が出るなどの課題が出ている。</p> <p>○文字を書いたり、紙で活字に触れたりすることも大事にしてほしい。</p> <p>○English Challenge は良い取組。単に英語外部検定試験を受けさせるだけでなく、その意義や英語を使う楽しさを理解させる取組が大切。</p> <p>○English Challenge やスタディサプリの活用をもっと学校全体で進めてほしい。</p> <p>○感染症対策を講じながら行事が実施できたのは大変良かった。</p> <p>○企画を「やらせてほしい」と先生に頼むのではなく、エビデンスや論拠を持って説得する姿勢が大切。</p> <p>○部活動を通して子供達が新しいチャレンジすることを教職員全体で熱意をもって指導してほしい。</p> <p>○与野高生としてプライドを持って主体的・積極的に行動できるようになってほしい。</p> <p>○卒業生と交流して、数年先のゴールが見据えられる機会があると良い。</p> <p>○コロナ禍以前の小高連携事業はとても成果が出ていた。令和5年度は時期や方法を工夫して復活していけると良い。</p> <p>○PTAや後援会でも生徒の取組を応援していきたい。</p>	

